

IV-40 住民意識からみた自立した地域社会に求められる生活環境について

秋田大学 学生員 ○星川 健
秋田大学 正会員 木村 一裕
秋田大学 学生員 三浦 大和

1.はじめに

少子・高齢化、国や地方自治体の財政難など厳しい社会環境下で、地域住民の生活は多様化、広域化し地域のコミュニティや個性が失われつつあるが、地域単独で住民の生活を維持することは困難である。一方で地方分権が進展し、これらの問題に対し地域住民がどう取り組むかが課題となっている。

そこで、本研究では異なる地域同士が相互依存しながらも、地域住民や市町村自治体が地域づくりを主体的に行うことを地域の自立と考え、秋田県井川町を例に住民がどのような地域づくりを望み、そのために必要な環境とは何かを検討することを目的としている。

2.調査地域の生活環境と住民意識

調査地域の生活環境把握のための統計調査と住民意識把握のためのアンケート調査を行った。アンケート調査概要を表-1に、主な統計調査結果を表-2に、アンケート結果の一部を表-3、図-1、図-2に示す。井川町は秋田市に隣接し、町内に駅や国道が整備され都市部へのアクセスが良い地域である。町内での雇用や、買い物施設、医療施設の整備状況は良くないことから、周辺地域への依存が強い地域であることが考えられるが、井川町の住み心地への意識から、住民の多くがその生活に満足しているとわかる。近年の市町村合併には参加しておらず、図-1に示した施設の広域利用への意識から病院や大型スーパーについて広域利用でよいと考える人もいることがわかる。

表-1 アンケート調査概要

調査時期	平成17年10月
調査対象	15歳以上の井川町住民
配布数	1200部
回収数(回収率)	492部(41%)

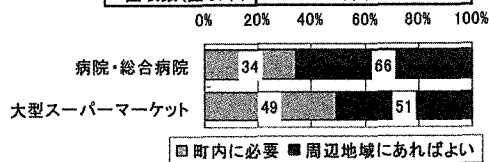


図-1 施設の広域利用への意識

表-2 井川町の主な統計

調査項目	結果	県内順位 (旧69市町村中)
総人口	6,051人	50
年少人口(0~14歳)	791人(13.1%)	17
生産年齢人口(14~64歳)	3,562人(58.9%)	30
老年人口(65歳以上)	1,698人(28.1%)	47
秋田市からの距離	約25km	
財政力指数	0.237	33
第1次産業就業者数	312人(10.6%)	56
第2次産業就業者数	1,192人(40.5%)	15
第3次産業就業者数	1,440人(48.9%)	26
他市町村への通勤者比率	1,482人(50.3%)	6
昼夜間人口比率	92.6%	31
自家用乗用車保有台数	1.65台/世帯	14
小売店数(人口千人当たり)	9.6店	59
医療施設数	病院0 診療所1(0床)	
保育施設	保育所1(定員80名) 幼稚園1	
ホームヘルパー数 (65歳以上人口千人当たり)	17.08人	3

表-3 アンケート結果概要

質問項目	結果
年齢	「10代」2%、「20代」7%、「30代」10%、「40代」25%、「50代」31%、「60代」16%、「70代以上」8%
性別	「男性」54%、「女性」46%
職業	「学生」3%、「会社員」35%、「主婦」15%、「自営業」10%、「公務員」7%、「パート・アルバイト」11%、「無職」13%、「その他」6%
通勤手段	「徒歩」3%、「自転車」3%、「自動車」90%、「電車」5%
世帯構成	「1人世帯」1%、「1世代世帯」17%、「2世代世帯」45%、「3世代世帯」33%、「その他の世帯」3%
井川町の住み心地	「住みやすい」29%、「どちらかといえば住みやすい」45%、「どちらともいえない」19%、「どちらかといえば住みにくい」5%、「住みにくい」2%

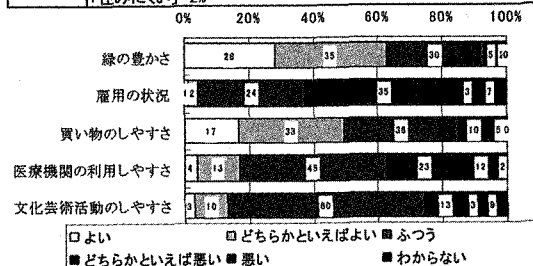


図-2 生活環境への満足度

3.住民が望む地域づくり

周辺地域に依存しながらも住み心地に満足している中で住民がどのような地域づくりを望んでいるのかを考察した。

(1)住民が望む地域づくりの類型化

住民が望む地域づくりを類型化するために、数量化Ⅲ類を用いた。表-4に使用カテゴリとスコアを、図-3にカテゴリプロットとサンプルプロットを示す。

す。図-3で、「娯楽があること」「買い物のしやすさ」が第1軸の正の位置に布置されたことから、これを「開発意識軸」と解釈した。また、「地域の歴史の継承」「芸術・文化振興」が第2軸の正の位置に布置されたことから、これを「歴史・文化意識軸」と解釈した。

表-4 使用カテゴリとスコア

カテゴリ	第1軸	第2軸
自然環境の保全	-0.3571	0.1932
芸術・文化振興	-1.2891	2.8824
住民自治やコミュニティの振興	-1.1830	-0.8117
町民への広報・公聴	0.1269	-1.6827
買い物のしやすさ	1.5438	0.3388
雇用対策	0.1363	-0.2420
地場産業の創出	-0.6005	-0.5490
地域の歴史の継承	-2.4999	3.9648
娯楽があること	2.0711	1.0440

表-5 数量化Ⅲ類による軸解釈

	軸解釈	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	開発形態軸	0.4243	19.95%	19.95%	0.6514
第2軸	歴史・文化意識軸	0.3525	16.57%	36.53%	0.5937

住民が望む地域づくりのイメージは図-3の楕円で囲まれている3つのグループに分けられた。グループAが域内生活の向上よりも個性の保持・創出を望むグループで人数が61人、グループBは地場産業創出など個性を考慮した開発を望むグループで人数が203人、グループCは地域個性よりも域内生活の向上を望むグループで人数が192人である。この類型化から地域社会を構成する要素として、自然環境、個性、コミュニティなどさまざまなものがあるが、住民が望む地域づくりは「個性」と「利便性」の2つの要因により分類されると考えられる。

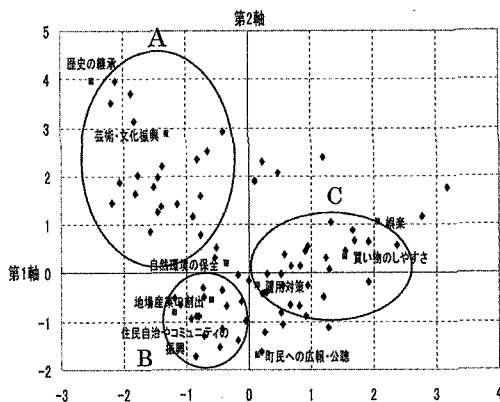


図-3 カテゴリプロットとサンプルプロット

(2)グループごとの特徴抽出

表-6に地域資源の重要性について「重要である」と回答した割合を示す。全ての地域資源に対して、

グループAからグループCへと「重要」と考える割合が減少していく。このことから、グループAからグループCへと地域の「個性」への意識が低下していくことがわかる。

表-6 地域資源への意識(「重要である」と回答した割合)

	A	B	C
JR井川さくら駅	90%	84%	83%
日本国花苑	83%	78%	70%
願人踊りなど郷土芸能	46%	31%	18%
歴史遺跡	49%	28%	13%

図-4はまちづくりに関する話し合い(ワークショップ)への参加意識についてグループごとに集計した結果を示している。グループCはグループA、グループBに比べまちづくり活動への参加意識が低いことがわかる。このことからどのような地域づくりを望んでいるかにより、地域づくりへの参加意識が変化することがわかる。

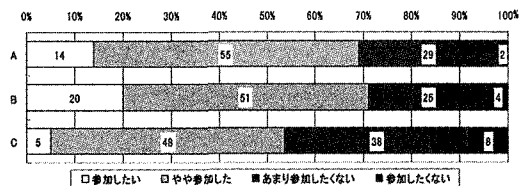


図-4 グループ別にみた地域づくりに関する話し合い(ワークショップ)への参加意識

4.まとめ

本研究により、住民の意識には地域の広域化を受け入れることで普段の生活は周辺地域へ依存しながら、地域には「個性」を求める意識と、地域の広域化を受け入れずに、地域内の都市的開発による「利便性」を求める意識、の2つの意識が形成されていることが考えられた。また、都市的開発による「利便性」を求める住民には、地域活動のしやすさについて「わからない」という回答が多く、地域づくりに関する話し合いの参加意識が低く、参加経験も少ないということからも、都市的開発による地域づくりを行う際には、住民の地域づくりへの関心や参加意識を高めるための施策が必要であると考えられる。

今後の課題として、さらに多様な特徴抽出と住民の地域づくりへの関心や参加意識を高める具体的な方策の検討が挙げられる。